

平成23年度 第2回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成23年6月13日(月) 10:00~12:00

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 会議室

III. 出席者: 林委員 多賀委員

(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

現在検討中の学士力を実現するための授業モデルについて、以下のポイントが確認された。

- ① 現状の課題はあるが5年先を目指し、世界で通用するモデルを提案する。
- ② 学生に修練の場を持たせ、学びが足りないことを気づかせる真理の探求の提案をする。
- ③ 答えでなく、方向性を示す。
- ④ 国際社会で活躍できる人材育成に向けて大学はどのように授業づくりをするかを考えることが重要。
 - ・ 一人一人の能力を高める教育。
 - ・ このための大学のマネジメント。
 - ・ 教員の意識改革が必要であり、改革は教員の手によってつくるものである。
- ⑤ 大学は教わるところで無く学ぶところ、自ら学ぶ姿勢を育てるモデルにする。
- ⑥ 国際関係を社会や歴史から考える力を付けさせるモデルとする。

などと、ポイントを確認し、到達目標1と到達目標3について検討し、編集作業を行った。

2. 授業モデル案1

国家、地域、国際組織、多国籍企業、NGOなどで構成される国際関係の基本的な仕組みとその背景を理解できるようにするモデル。

- ・ 基礎教育として、国際社会の基礎的概念・枠組を理解させるモデルである。
- ・ 身近なテーマからどのように国際社会と関わりを持っているかを理解し、積極的に関与する姿勢を身に付けさせることを目的とする。
- ・ 初年次での教育で終わらないよう、学びが4年間を通じて定着できるようにするため、終了後もネット上で学生の理解度に応じた学習の場を提供する。
- ・ グループによる学習を基本にして協働で自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。
- ・ 上級学年をはじめ担当教員がネット上で学生とコミュニケーションを行い、フォローアップするきめの細かい学習支援の体制を検討する。

3. 授業モデル案2

国際社会と国家、個人などとの関係を認識し、地球的規模で人類共通の問題解決に向け、支

え合う態度を身に付けさせるモデル。

- ・ 個々の関連科目の知識を統合させる授業モデルであり、教員同士の共同作業が前提となる。
- ・ このため実際の場面を想定した、シミュレーションを行い政策提言させる授業モデルとする。

2. 次回までの宿題

本日検討したモデルのイメージで、アンケートに向け、最終調整をし、8月にアンケート実施し中間まとめを行う。

V. 次回の開催日程

日時：メーリングリストにて調整